

02

關係

THIS IS THE
GOSPEL

THIS IS THE GOSPEL

- 01: 召命
- 02: 関係
- 03: 追求
- 04: 旅路

おめでとう！

ようこそ、神のファミリーに！ キリストとの関係をスタートさせたあなたは、これからキリストを追い求めていくことになります。ここでは、それを助ける知恵と知識を提供していきます。

あなたは、イエス・キリストを信じて罪を離れて、クリスチャンとしての新しい人生を歩み始めました。この新しい人生は、聖書ではさまざまな言葉で言い表されています。あなたは「救われた」「贖(あがな)われた」「新しく生まれた」のであり、「神の子ども」「神の友」「キリストにある新しい創造」とされたのです。これ以外の表現もまだまだあります。つまり、あなたはキリストにある新しいアイデンティティ（訳注・「自分はだれか」という概念）を与えられたのです。

クリスチャンの成長の大部分は、キリストにある新しいアイデンティティを理解して、それを受け入れることにあります。あなたが神のために生きるわけではありません。神があなたを通して生きてくださるのです。それがキリスト教であり、キリスト信仰なのです。そんな人生・生き方は、キリストにあるアイデンティティを理解し、キリストとの親しい関係のうちにキリストを追い求めて歩むときに、可能になります。この第二部（手引書2）は、今日からの7日間の学びの中で、以下のような質問に答えていきます。

- 第1日: キリストにある新しいアイデンティティって、なに？
- 第2日: 永遠のいのちって、なに？
- 第3日: クリスチャン人生のゴールって、なに？
- 第4日: キリストの弟子になるって、どういうこと？
- 第5日: どうやって聖書を学べばいいの？
- 第6日: どうして教会に通わなくちゃいけないの？
- 第7日: クリスチャンとして成長するには、何をすればいい？

ローマ人への手紙 8 章 29 節には、「神が予告した人々のために、御子の似姿になるようにあらかじめ定められた...」とあります。神はあなたの性格をキリストの性格に合わせることを望んでいます。神はあなたがクリスチャンとして理解と成長を遂げることを望んでおられます。私たちの目的は、あなたが正しい道を歩めるよう支援することです。

あなたがキリストの命を発見するとき、神があなたを祝福してくださいように！



この手引書の使い方

- 1) 聖書、ペン、蛍光ペンを用意しましょう。
- 2) 手引書の内容をよく注意して読んで、すべての空欄に書き込んでください。
- 3) できれば、クリスチャンになってすぐにこの手引書を使ってください。信仰に入って時間が経つ人も、参考ガイドとして用いて、自分の信仰の歩みを確かなものにしてください。
- 4) 機会が与えられたら、この学びの内容を他の人に伝えましょう。



第1日

第1日:キリストにある新しい アイデンティティって、なに？

私たちは、自分のアイデンティティによって定義をされます。アイデンティティは、たいてい私たちの行動、好み、どこから来たのか、自分自身をどう見ているのかなどに関係しています。たとえば、初めて会う人に何と言って自己紹介するか注目してみてください。「おはようございます。私は鈴木です。小児科医をしています」「初めまして。僕は田中といいます。中学校で英語を教えています」「こんにちは。私の名前は加藤です。私は癌を患っていて、今、治療中です。」これはすべて、アイデンティティが自分を定義している瞬間です。

キリストを信じる前の私たちのアイデンティティは、自分の行い・行動によって定義されていました。ローマ人への手紙3章23節に「すべての人は罪を犯して、神の栄誉を受けることができず・・・」とあります。少しの罪か多くの罪かに関係なく、すべての人が罪を犯し、すべての人が罪人と定義されました。

しかし、キリストを信じて罪を離れたとき、新しいアイデンティティが与えられました。あなたは、もう罪によって定義されません。キリストの義によって定義されているのです。パウロはこう言っています。「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです」(ガラテヤ2章19-20節)。あなたのうちに、キリストが生きておられるのです！

ウィリアム・カルバートソンは、罪と義の「偉大なる交換」(救いにおいて、

キリストが私たちの罪を背負い、ご自分の義のアイデンティティを私たちに与えること)について、ローマ人への手紙6章6-8節からこう語っています。「十字架で死んだのは誰ですか?十字架で死んだのは、もちろん、私たちの主イエスです。しかし、ほかに死んだのは誰でしょう?『私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減ぼされて、私たちがもはや罪の奴隷でなくなるためです。死んだ者は、罪から解放されているのです。私たちがキリストとともに死んだのなら、キリストとともに生きることになる、と私たちは信じています』」

クリスチャンの新しいアイデンティティは、キリストのうちにあります。キリストが十字架で死なれたとき、あなたも十字架の上で死んだのです(ローマ6章6-8節)。キリストが死者の中からよみがえられたとき、あなたも死者の中からよみがえったのです(コロサイ2章12節)。あなたはキリストのうちにあり、キリストはあなたのうちにおられます。キリストが、あなたのアイデンティティなのです!

これは、あなたがキリストと同等という意味ではありません。単純に「あなたの古い人生は過ぎ去り、あなたの新しい人生はキリストにある」という意味です(第二コリント5章17節)。

以下のチャートは、神の視点から見たあなたの新しいアイデンティティを書き出したものです。

あなたは何者?

- あなたは地の塩(マタイ5章13節)
- あなたは世の光(マタイ5章14節)
- あなたは神の子ども(神の家族の一員)(ヨハネ1章12節、ローマ8章16節)
- あなたは、まことのぶどうの木の枝(ヨハネ15章1節、5節)
- あなたはキリストの友(ヨハネ15章15節)
- あなたは、実を結ぶために、キリストに(ヨハネ15章16節)
- あなたはキリストの証人(使徒1章8節)
- あなたは義の奴隷(ローマ6章18節)
- あなたは神の奴隷(ローマ6章22節)
- あなたはキリストの共同相続人(ローマ8章17節)
- あなたは神の宮(第一コリント3章16節、6章19節)
- あなたは主と交わる、主と一つの霊の者(第一コリント6章17節)
- あなたはキリストのからだの部分(第一コリント12章27節、エペソ5章30節)

- あなたは新しく造られた者(第二コリント5章17節)
- あなたは神と和解して、和解の務めを与(第二コリント5章18-19節)
- あなたは神の子ども、キリストにあって(ガラテヤ3章26-28節)
- あなたは神による相続人(ガラテヤ4章6-7節)
- あなたは聖徒(エペソ1章1節、第一コリント1章2節、ピリピ1章1節、コロサイ1章2節)
- あなたは神の作品(エペソ2章10節)
- あなたは同じ国民、神の家族(エペソ2章19節)
- あなたはキリストの囚人(エペソ3章1節、4章1節)
- あなたは神に選ばれた者、聖なる者、(エペソ4章24節)
- あなたは国籍が天にある、天上に座る者(エペソ2章6節、ピリピ3章20節)
- 神の中にキリストとともに隠されている(コロサイ3章3節)
- あなたはキリストのいのちの現れ(コロサイ3章4節)
- あなたは神に愛されている、神に選ばれた者(コロサイ3章12節、第一テサロニケ1章4節)
- あなたは光の子ども、闇の者ではない(第一テサロニケ5章5節)
- 聖なる兄弟 あなたは、天の召しにあずかっている(ヘブル3章1節)
- あなたはキリストにあずかる者(ヘブル3章14節)
- あなたは生ける石(第一ペテロ2章5節)
- あなたは選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民(第一ペテロ2章9-10節)
- あなたは旅人、寄留者(第一ペテロ2章11節)
- あなたは悪魔の敵(第一ペテロ5章8節)
- あなたは神によって生まれた、悪い者(悪魔)が触れることができない者(第一ヨハネ5章18節)
- あなたは神の羊(詩篇23篇、100篇)

クリスチャンの歩みは、神の視点で自分を見ることから始まります。自分にとって重要だと思ふ聖句には、蛍光ペンで印を付けましょう。



第2日

永遠のいのちって、なに？

あなたには、イエス・キリストに従う者として「永遠のいのち」という無償の贈物が与えられています（ローマ6章23節）。なんと素晴らしいグッド・ニュース（良い知らせ）でしょうか。ただ、残念なことに、永遠のいのちの意味をきちんと理解していないクリスチャンがたくさんいるのです。なので、少し時間を割いて、神の視点から永遠のいのちを定義してみましょう。

イエスはよく、永遠のいのちについて話しました。

「それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです」（ヨハネ3章15節）

「わたしの父のみこころは、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持つ[つ]・・・ことなのです」（ヨハネ6章40節）

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」（ヨハネ3章16節）

「わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます」（ヨハネ4章14節）

イエスは、永遠のいのちについてあらゆる場所で語り、天の父に祈り、弟子たちに教えました。聖書を読めば、キリストを信じ

る者はだれでも永遠のいのちを得る、ということが分かります。では、永遠のいのちとは一体何なのでしょう？ イエスは、それをヨハネの福音書17章で初めて定義しています。

「永遠のいのちとは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス・キリストを知ることです」（ヨハネ17章3節）

神を知ること、それが永遠のいのちです。キリストが、天の栄光をあとにしてこの地上へやって来た理由は、私たちが神を知るようになるためです。多くのクリスチャンが「永遠のいのちは、死んでから天国に行くことだ」と間違った思い込みをしています。もちろん、天国に行くことは素晴らしいことです。でも、それは神を知ることがもたらす恩恵であって、メイン・ギフト（最も大切な賜物）ではありません。

神が与えるメイン・ギフトは、神ご自身です。私たちは、神との親しい関係のために創造されましたが、その関係は罪によって壊されました。その関係を修復（和解）するために、イエスが十字架で死に、再びよみがえりました。永遠のいのちは、神との親しい関係の中で神を知ることなのです。

「神を知ること」が永遠のいのちなら、どうやって神を知ればよいのでしょうか？ どうしたら神を知ることができるのでしょうか？

- 神がご自身を啓示しなければならない。
- 神が啓示したことを信じなければならない。
- 啓示された方（キリスト）と一緒に時間を過ごさなければならない。

（訳注・啓示とは、神ご自身や神の真理など、人間の力で知ることのできない事を、神が人間にあらわし示すこと。または、そうして示された事）

まず第一に、神はどうやってご自身を啓示されたのでしょうか？ 次の四つを通してです。

- 創造（詩篇19篇1-4節、ローマ1章20節）
- 良心（ローマ2章14-15節）
- キリスト（ヨハネ1章1節、5章18節、8章58節、14章9節、ヘブル1章1-2節）
- 聖書の正典（ヨハネ20章31節、第二テモテ3章16節、第二ペテロ1章21節）

第二に、なぜ神が啓示した事を信じるのが重要なのでしょうか？信仰（信じること）は、福音メッセージの中心です。前ページの聖句からも分かるように、永遠のいのちはキリストを信じる者に与えられます。つまり、イエスが神の御子であり、十字架で死んだ後に死者の中からよみがえられ、永遠のいのちを与えてくださると信じる者です。キリストがどんな方で、十字架の上で何をされたのか、それが福音メッセージの中心です。そして、それを信仰によって信じなければならないのです。

第三に、なぜ啓示された方（キリスト）と一緒に時間を過ごす必要があるのでしょうか？だれかを知る唯一の方法は、その人と一緒にいる時間を持つことです。その人についての情報を本から得ることはできませんが、その人を知るためには、一緒に時間を過ごさなければなりません。一緒にいれば、その人独特の話し方、しぐさ、特徴、好き嫌い、気質、性格、態度、意見、心、考え、反応の仕方などを知っていきます。同じ時間を過ごすからこそ、知ることができるのです。

まとめてみます。神の賜物は、永遠のいのち。永遠のいのちは、神を知ること。神を知ることができる理由は、神がご自身を啓示してくれたから。どうすれば神を知ることができるかということ、神が啓示した事を信じて、神と一緒に時間を過ごすことで。

聖書を開いて、ヨハネの福音書15章1-8節を読んでみましょう。キリストは「わたしにとどまるように」と何度も語っています。とどまるとは、キリストと一緒にいる、キリストのうちに居続ける、キリストと親しい関係になるということです。キリストにとどまることが、どう神を知ることにつながると思いますか？ここまでの学びをもとに考えてください。

神は、聖書の中にご自身を啓示されています。なので、その神の啓示を信じることも、神を知ることなのです。コロサイ人への手紙1章15-19節を読んでみましょう。神はご自身について何を啓示していますか？神はどのようなお方ですか？神の主な特質をいくつか書き出してください。あなたは、神ご自身についてのそれらの啓示を信じていますか？

あなたは神と時間を過ごし、神が啓示した事を信じることで、神様を知るようになります。そして、神様を知るようになることで、永遠のいのちを体験していくのです。



第3日

クリスチャン人生のゴールって、なに？

神の賜物が永遠のいのち（神を知ること）であるなら、クリスチャンの究極的なゴールは、その賜物を受け取って体験することです。今日の学びは、ある意味、昨日の学びの続きです。永遠のいのちの本質が分かった今なら、クリスチャン人生の目的を正確に理解できるはずですよ。

クリスチャンの人生のゴールは、何なのでしょう？ 弟子訓練で知られるクライド・クランフォードは「二重構成のゴール」を教えてください。

究極的なゴール（目的）は、神を知ること

私たちは、神を知ることによって永遠のいのちの賜物を受け取り、それを体験します。これは、私たちが創造された目的を取り戻すことでもあります。神と親しく交わるために、私たちは創造されたからです。では、神を真に知るためには、どうすればよいのでしょうか？

毎日のゴール（目標）は、神と時間を過ごすこと

昨日の学びにもありましたが、だれかを知る唯一の方法は、その人と一緒に時間を過ごすことです。本から学べる事はあっても、その人を本当に知りたければ、一緒に時間を過ごすしかないのです。たとえば、だれかと付き合う（交際する）ときのことを考えてください。交際の主な目的は、相性が合うかどうかを判断するために、お互いを知っていくことにあります。交際中は、相手が行きたい所に一緒に行き、相手がしたい事を一緒にします。また、相

手の考えや気持ち、夢や将来のプランなどを理解しようと努力します。同じ時間を共有することで相手の性格や行動などを発見していき、やがて相手を知るのです。

神を知るのにも、これと同じアプローチを使います。では、具体的にどうすれば、神との時間を過ごせるのでしょうか？ よく用いられる「神との時間の過ごし方」をあげておきます（これらの多くは霊的訓練とも呼ばれます）。

- **聖書を読むことで、神との時間を過ごして神を知る。**
聖書は、神がご自身をあらわし示す「神の啓示」です。神は、ご自身の性質・思い・計画・願いを、聖書の中で明らかにします。聖書を学べば学ぶほど、もっと深く神を知って理解していくことができます
- **祈りを通して神と会話することで、神との時間を過ごして神を知る。**
祈りは、単にあなたの願いや必要を神に告げるだけの場所ではありません。祈りの中で神の声を聞き分けるのは、時間が掛かります。でも、神と一緒にいればいるほど、神の声に気づけるようになり、神の声を聞き分けられるようになります。
- **神を礼拝することで、神との時間を過ごして神を知る。**
賛美することだけが、礼拝ではありません。私たちは、自分の生き方、決断、行動、仕事、趣味などによって神を礼拝します。また「神を思う」「神に感謝をささげる」「神のうながしに従う」などのシンプルな行為でも、神を礼拝することができるのです。
- **聖書的な教えやメッセージに耳を傾けて、神との時間を過ごして神を知る。**
テモテへの手紙第二2章15節に「あなたは務めにふさわしいと認められる人として・・・自分を神に捧げるように最善を尽くしなさい」と書いてあります。自分だけで神が分かるようになる人などいません。キリストを信じて従っていくには、ほかのクリスチャンたちの協力が必要です。聖書に基づいた教えやメッセージを聞けば、それらがキリストを示し、キリストをあがめます。また、キリストを信頼するように励まし、キリストの教えを伝えてくれます。そのすべてが、神を知ることの助けになるのです。

- 自然の中で過ごす時間を通して、神との時間を過ごして神を知る。
目に見えない神の本性や属性（神に固有の性質）は、被造物によってはっきりと認められるのだと、ローマ人への手紙1章は言っています。自然界は神の栄光で満ちている、と詩篇の作者も告げています。神がご自身をもっと明確に啓示しているのは、特別啓示である聖書です。しかし神は、一般啓示である被造物を通して、ご自身を啓示しています。

どの方法を用いたとしても、その目的は「神との集中した時間を過ごすこと」です。

まとめてみます。私たちクリスチャンの究極的なゴール（目的）は「神を知ること」です。神について勉強した人や奉仕活動に人生を費やした人が、神ご自身をまったく知らないということもあり得ます。私たちのゴールは、神に関する（間接的な）情報を得ることで聖書学者になることでもなく、あくまで「神を知ること」なのです。

日々の生活でのゴール（毎日の目標）は、神と時間を過ごすことです。そのためには、神との時間の過ごし方、神を知る方法を見つける必要があります。今日学んだ方法のリストを見返してください。

一つ目のゴールはあなたの人生を方向づけ、二つ目のゴールはあなたの毎日を方向づけてくれます。この二重のゴールを常に意識していれば、キリストにあるいのちを理解して、キリストとの歩みに大きく成長していけるはずです。

学んだ「神との時間の過ごし方」をもとにして、今日から始めることができる事をいくつか書き出してみましょう。

「聖書の神を知る」というゴールに到達できるように、あなたを助けてくれる人はいますか？それは誰でしょう？何人かの名前（または、どんなタイプの人か）を書いてください。



第4日

キリストの弟子になるって、どういうこと？

「イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。『わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます』」（マタイ28章18-20節）

この聖句から考えるべきことが、二つあります。一つは、弟子とは何かということ。もう一つは、弟子はどうやってできるのかということ

紀元1世紀のユダヤ的観点から言うと、「弟子」とは、自分のラビ（教師・先生）のようになるために、そして最終的にはラビの教えをほかの人に伝えることができるようになるために、ラビと一緒に時間を過ごす人（ラビに耳を傾け、ラビを観察して、ラビを見習う人）のことを指しています。

新約聖書の中で、イエスは13回も「ラビ」と呼ばれています。イエスは私たちのラビであり、私たちはイエスの弟子です。イエス・キリストの弟子である私たちは、イエスに似た人になるために、そして最終的にはイエスの教えをほかの人に伝えることができるようになるために、キリストと一緒に時間を過ごす者（キリストに耳を傾け、キリストを見て、キリストを見習う者）なのです。

一緒に時間を過ごす中で、キリストは私たちが神を愛するように、ほかのクリスチャンたちとつながるように、世に仕えるように、福音を委ねるように導いてくださいます。クリスチャン人生のすべては、このキリストを追い求める信仰生活の四つの面から湧き出てきます。

「神を愛する」とは：

- 神との個人的な関係を楽しむこと
- 神のことば（聖書）を通して、神を知ること
- 祈りを通して、神とのコミュニケーションを取ること
- 神と一緒に時間を過ごすこと
- 生き方で神を礼拝すること
- たいせつな第一の戒めに従って生きること（マタイ22章37-38節）

「ほかのクリスチャンたちとつながる」とは：

- キリストを信じる他のクリスチャンたちと強い関係を築いて、その関係を楽しむこと
- 聖書の学び、祈り、ミッション、奉仕、愛において一つになり、共に生きること
- キリスト教はクリスチャン・コミュニティの中で経験されるものだと、理解すること
- 互いを愛し、互いに仕え合うこと

「世に仕える」とは：

- 言葉だけでなく行動で人に愛を示すこと
- 世界とその資源の良き管理者になること
- キリストの手本にならって、人に仕えること
- 人・家族・コミュニティ・国のために力を注ぐこと

「福音を委ねる」とは：

- 神の国の福音を人々に宣べ伝えること
- キリストの教えを人々に委ねること、また、その教えの伝授をほかの人々に託すこと（「わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。」）
- 一緒に御国の働きに参加するように、ほかの人たちを誘うこと

教会の建物や予算やプログラムをすべて取り除いて考えてみると、弟子になるということは「キリストを追い求める」ということだと分かるはず。そ

して、私たちがキリストを追い求めるとき、キリストは私たちが神を愛するよう
に、ほかのクリスチャンとつながるように、世に仕えるように、福音を委ね
るようにと導いてくれます。

神と共に生きる人生は、人それぞれに少しずつ違って見えるだろうと思いま
す。それでも、弟子として生きる人生の方向性・向きは、みんな同じです。そ
れは愛するように、結びつくように、仕えるように、委ねるようにと、キリスト
が私たちみんなを導くからです。

弟子になるプロセスが理解できたら、今度はそのプロセス自体が霊的コンパ
スのような役割を果たしてくれます。つまり、キリストにある成長・成熟に向
かって確実に前進したいなら、先の四つの重点を自分の信仰生活に照らし
てみてください。そして、何が欠けていて何が足りないのかを、神に尋ねて
みましょう。つねに「神を愛する」を霊的な真北に保つべきです。神を愛する
ことに全力で取り組めば、霊的コンパスのほかの三つの点も上手くいくはず
ですこの霊的コンパスを自分の人生・生活の上に置いてみると、コース変更
が必要な箇所が見えてきます。たとえば（神との時間を過ごしていない）（



ほかのクリスチャンとつながっていない)と気づかされるかもしれません。ま
たは、世に仕えていないこと、福音を伝えていないこと、証していないことが
分かるかもしれません。そうやって、欠けているもの・足りないものが何かに
気づかされたら、信仰生活のその面で、神があなたを通して生きて働いてく
ださるように祈ってください。

今日学んだ四つの重点において、今、あなたの信仰生活に欠けているもの・足りないものは何ですか？また、その点に取り組むためには、だれと話をすべきだと思いますか？

私たちは、弟子になるように、また、弟子をつくるようにと召されています。
そのためには誰から学び、また、誰に伝える（教える）ことができるでしょ
う？名前をあげてください。



第5日

うやって聖書を学ばいいの？

ギデオン協会の聖書（英語版）の表紙の裏には、（だれの言葉なのかは分かりませんが）とても奥深くて今的にも意味のある、次のような言葉が記載されています。（なお、本文中の「本」とは、聖書のことです。）

この本には、神の思い、人間の姿、救いの道、罪人の滅び、そして信じる者の幸せが書かれています。その教義は神聖で、その戒めには拘束力があり、その歴史は真実で、その定めは不変です。どうか、読んで知恵を得、信じて安らぎ、実践して聖（きよ）くなってください。

この本の中に、私たちが導く光があり、養う糧（かて）があり、励ます慰めがあります。これは、旅人の地図、巡礼者の杖、パイロットのコンパス、兵士の剣、そしてクリスチャンの品性なのです。

ここに、パラダイスが回復され、天国が開かれ、そして地獄の門が明かされています。その壮大な焦点はキリストであり、その意図は私たちの幸福であり、その目的は神の栄光です。この本は、記憶を埋め、心を治め、足を導くためのものです。

ゆっくりと何度も、そして祈りながら読んでください。

この本は、私の人生に与えられ、裁きの時に開かれ、とこしえに覚えられるものです。また、最高の責任を伴い、最大の働きに報い、その聖なる内容を軽くあしらうすべての者に有罪を宣告するのです

これは聖書についての迫力ある、真実な描写です。まず今日は、簡単な聖書の定義を紹介しましょう。

聖書は、神が人間にご自分をあらわし示す「神の啓示」です。

弟子として成長するためには、聖書を学ぶことが必要不可欠です。すべての教義、そして、個人の信条は、聖書の真理によって吟味され、検証されなければなりません。また、聖書を学ぶことで、下記のような質問・疑問に対する答えが分かります。

- 何が真実か、どうしたら分かるの？
- 神の望むことが何か、どうしたら分かるの？
- 神を知るためには、どうすればいいの？
- 自分の信じている事が真実かどうか、どうやって分かるの？
- 自分の家族をどう導けばいいの？
- 弟子としてどう生きればいいの？

こうした質問・疑問の答えは、聖書を学んでいけば見えてきます。テモテへの手紙第二3章15-17節は、次のように語っています。「聖書はあなたに知恵を与えて、キリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができます。聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。神の人がすべての良い働きにふさわしく、十分に整えられた者となるためです」。

聖書を学ぶときに、念頭においておくべき重要概念

1) 聖書は神のことば

「聖書はすべて神の靈感によるもの・・・」— 第二テモテ3章16節

靈感による内容、写本の無誤（むご）性、教義の無謬（むびゅう）性

- 灵感：神が息を吹きかけた（聖書の著者を通して）
- 無誤：間違いが無い（絶対的信頼性がある）
- 無謬：誤ることが絶対にあり得ない（誤って導くことがない）

2) 聖霊が聖書の理解を可能にする

「しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導いてくださいます。御霊は自分から語るのではなく、聞いたことをすべて語り、これから起こることをあなたがたに伝えてくださいます」— ヨハネ16章13節

聖霊は、クリスチャンであるあなたと共にいるだけでなく、あなたの内側に住んでおられるのです（ヨハネ14章17節）。

3) 聖書が聖書を解釈する

「ただし、聖書のどんな預言も勝手に解釈するものではないことを、まず心得ておきなさい。預言は、決して人間の意志によってもたらされたものではなく、聖霊に動かされた人たちが神から受けて語ったものです」— 第二ペテロ1章20-21節

理解できない聖書箇所があるときは、聖書のほかの箇所に答えをもらいましょう。

4) 文脈が意味を解き明かす

聖書箇所をきちんと正確に解釈するには、次のことを知る必要があります。

- 著者:だれが書いたのか
- 読者:だれに宛てて書かれたのか
- 状況:そのとき、著者と読者に何が起こっていたのか
- 目的:なぜ書かれたのか
- 文体:どの文学様式・ジャンルか（歴史的物語、詩歌、知恵文学、黙示文学、書簡など）

（こうした情報は、スタディバイブルの聖書66巻各書の冒頭や聖書ガイドブックに記載されています。また、バイブルコアやCGNジャパンなどの聖書に関する情報サイトでも知ることができます。）

5) 解釈は一つ、適用は多数

解釈は、もともとの文脈にしたがった、限定された解釈になります。原著者が原読者に向けて何を意図して書いたのか、それが分かってはじめて、その真理を私たちの人生や生活に適用することができるのです

6) 目的は、神を知ること

聖書研究の最終目的は、知識を増やすことではなく、神を知ることです。

聖書を学ぶには、時間と継続が必要です。一度にすべてを理解することはできません。分からない所や質問を書き出し、理解できるように祈り、神が答えてくれるのを待ちましょう。

今日から聖書を読み始めてください。どこから読み始めたらいいか分からない人は、ヨハネの福音書から始めるとよいでしょう。



第6日

どうして教会に通わなくちゃいけないの？

「神を信じているし、神を愛してもいる。だけど、それを証明するために教会に行く必要はない」と言う人がいます。言っている事は、間違っていない。そのとおりです。イエスは「毎週日曜日に教会に行くなら、それによって、わたしを愛していることを認める」とは言っていないからです。

神に愛を示すために教会に行く必要がないなら、そもそも教会にどんな意味があるのでしょうか。

驚くかもしれませんが、クリスチャン・コミュニティの中でしか成長できないことがあります。コミュニティに属さずに成長しようとするのは、たった一人で偉大なアメフト選手になろうとするようなものです。ひとりで習得できる事には限りがあるので、しばらくしたら（アメフトを真に理解し、技術を高めるためには、チームに加わらなければならない）と気が付くはずですよ。

キリスト教もチームスポーツと同じです。ひとりで真理を学ぶことはできません。しかし、それらの真理は、クリスチャンの兄弟姉妹たちがいるコミュニティの中で体現されるのです。第4日に学んだように、キリストの弟子であるということは、イエスを信じるほかのクリスチャンたちとつながることでもあります。もし、あなたを創造した神の意図する姿にちゃんと成長したければ、その成長は聖書的コミュニティのつながりの中で起こることです。

毎週、教会での礼拝に参加することは、いろいろな面であなたの霊的成長をうながしてくれます。

1) ほかに人とつながる場所

「信者となった人々はみな一つになって、一切の物を共有し、財産や所有物を売っては、それぞれの必要に応じて、皆に分配していた。そして、毎日、心を一つにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、・・・」— 使徒2章44-46節

2) 神を礼拝する場所

「ハレルヤ。神の聖所で、神をほめたたえよ。御力の大空で、神をほめたたえよ」— 詩篇150篇1節

3) 聖書の教えを聞く場所

「彼らはいつも、使徒たちの教えを守り・・・」— 使徒2章42節

4) 人に仕える場所

「それぞれが賜物を受けているのですから、神の様々な恵みの良い管理者として、その賜物を用いて互いに仕え合いなさい」— 第一ペテロ4章10節

5) 励ましを受ける場所

「ある人たちの習慣にならって自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか」— ヘブル10章25節

6) 課題を示され、意欲をかき立てられる場所

「鉄は鉄によって研(と)がれ、人はその友によって研がれる」— 箴言27章17節

パウロは、キリストのからだに属する一人ひとりが大切であり必要だと、エペソ人への手紙4章で言っています。「キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々(ふしぶし)を支えとして組み合わせられ、つなぎ合わされ、それぞれの部分はその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることとなります」(エペソ4章16節)。クリスチャン一人ひとりが、教会に貢献できる何かを持っています。そして、私たちが進んで参加して、仕え合い、共に働くときに、キリストのからだ全体が健やかになって成長し、愛のうちに建てられるのです。

さらにパウロは、コリントのクリスチャンたちが、互いに頼り合い支え合う関係にあると言っています。「それは、からだの中に分裂がなく、各部分が互いのために、同じように配慮し合うためです」（第一コリント12章25節）。クリスチャンの兄弟姉妹と一緒にいると、心地良いし、嬉しいです。でも、それだけではありません。なくてはならない、必要なことなのです。私たちは、お互いを必要としています。

なぜなら、キリストにある成長や成熟は、ほかの信仰者たちとのコミュニティの中でしか起こり得ないからです。

自分に適した教会やクリスチャングループを、どうやって見つければよいのでしょうか？

- それが分かるための洞察と導きを与えられるように祈る
- 神の御言(みことば)を忠実に教えている教会を探す。
- 弟子づくりに真剣に取り組んでいる教会を見つける（神を愛し、信徒同士がつながり、世に仕え、福音を委ねていっている教会）。
- 教会の掲げるビジョン、使命、信条、ミニストリー、教会リーダーなどについて尋ねてみる。
- 教会に通ってみる（または、グループに参加してみる）。
- 自分に合う教会（または、グループ）なら、継続して通う。適していない、合わないなら、合う教会を探す。

あなたは教会に通っていますか？その教会は、上記したような霊的成長をうながす場になっている教会ですか？そうでない場合、何が欠けているのでしょうか？

あなたが、もし教会に通っていないなら、（調べて行っていてもいいな）と思う教会をいくつか書き出してみてください。また、知り合いのクリスチャンの中で、教会を見つける助けになってくれそうな人の名前を書いてください。



第7日

クリスチャンとして成長するには、何をすればいいの？

クリスチャンの成長をうながす方法（霊的訓練）は、いくつも存在します。それが何か、なぜそれを行うのかを、きちんと理解することが大切です。

目的や意味が分からないまま奉仕や活動をしていけば、たどり着く先は「関係」ではなく「宗教」です。

あなたがクリスチャンになって、まず、やらなければならない事は何でしょう？

1) 洗礼を受けること

洗礼（バプテスマ）は、キリストと一つになること（一体化）、キリストに従うこと（従順）を象徴する儀式です。洗礼のうちに、私たちはキリストの死・埋葬・復活・いのちと同一化するのです（マタイ3章13-17節）。また、洗礼を受けて、キリストの大宣教命令に従うのです（マタイ28章19-20節、マルコ16章16節、使徒2章38節）。

洗礼によってはだれも救われません。聖書的な洗礼は、救われた後で、水に浸す・濡らす行為によって行うものです。洗礼は、救われた人がキリスト信仰を公に宣言する、信仰告白なのです。

2) 毎日、神との時間を持つこと

神との時間が重要であることは、第2日、第3日、第4日でも述べました。クリスチャン人生の目的は、神を知ることです。また、毎日の目標

は、神との時間を過ごすことです。神との時間の過ごし方はいろいろありますが、基本は祈りと聖書の学びです。

• 祈り

祈りは、神にあなたの心の内を語り、神が御心を語られるのに耳を傾けることです。つまり祈りは、二人の友が会話をするようなものです。片方だけが話しているなら、それはモノローグ（独り言）です。会話は二人で、お互いに話すものです。

神の声を聞く耳（リスニング力）を養うのには時間が掛かりますが、ただ、祈りの中の神の声が聖書の中の神の声に矛盾することは、決してありません。神は、私たちの祈りや問いに聖書を通して答えることがよくあります。祈りと聖書の学びは密接につながっています。

• 聖書研究と暗記

基本的な聖書の学び方については、すでに説明しました。しかし、聖書の学びは、一体何のためにするのでしょうか？私たちは聖書を学ぶことで、神ご自身、神の御心、神の指示、神の道を知ります。聖書は生きています（ヘブル4章12節）。聖書は神のことばです。だからこそ、神は聖書を用いて、ご自分の民に直接語り掛けるのです。

聖書の学びは、どこから始めればよいのでしょうか？以下は、いくつかの提案です。

- ヨハネの福音書を毎日1章ずつ読んで、次の二つの問い（イエスはどうなるのか？）（イエスに従うとはどういうことか？）を考える。そして、その答えを参照箇所と一緒にノートに書き留める。
- 箴言を毎日1章ずつ読んで、31日間（一か月）で読み終える。
- 新約聖書（マタイから黙示録まで）を通読する。一日に3章読めば、およそ三か月で新約聖書を全部を読み終える。
- 聖書全巻（創世記から黙示録まで）を読む。聖書を1年間で通読するためのプラン（通読表）がたくさんあるので、インターネット検索して好きなプランを使う。（旧約聖書・新約聖書・箴言・詩篇から毎日ちょっとずつ読むプランもある。）

あなたにとって大きな意味を持つ聖句に出会ったら、時間を取って、その聖句を暗記しましょう。神が、暗記した聖句を祈りのときに思い起こさせたり、その御言を通して語り掛けたりすることがよくあります。

3) 地域教会につながる

教会の大切さについては第6日で触れました。キリストに従う者として成長するためには、クリスチャン・コミュニティの中で、クリスチャンの兄弟姉妹たちとつながっていなければなりません。人とのつながりを作るのは、次のようなことです

- 教会でみんなと一緒に礼拝する
教会での礼拝は、神に対する愛を思い起こし、その愛を言葉で言い表すためのものです。私たちは聖書のことばによって、神がどんなお方で何をしてくださったのかに気づかされます。その神への愛を、賛美、祈り、メッセージ、会話を通して、言葉にするのです。
- スモールグループに加わる
スモールグループは、友情をはぐくむ助けになります。また、質問ができる場と機会を与えてくれます。スモールグループは、キリストにある成長をうながす場所なのです。
- 神の働きに捧げる
献金は、神を礼拝し、神を信頼する行為です。神がすべてを所有している方なのだと、聖書は言います。そして神は、私たちにその一部を託しているのです。その神が10分の1（十一献金）を捧げるように命じています。したがって、クリスチャンが10分の1を神に返すことは、神への従順と信頼を表すことなのです。100%全部を持っておくより、神の命令に従って捧げる方がよいのです。キリスト者は、神が残りの90%でもっと多くのことを成し遂げてくださると、信じています
- 参加する
牧師に話して、自分の霊的賜物を発見しましょう。そして（その賜物を用いて）奉仕できる場を見つければ、そこでほかの人たちと知り合いになれます。とにかく、積極的に参加してください。参加する意思さえあれば、人とつながる機会は見つかります。ほかの人から誘われるのを待っている、長い期間、待つことになるかもしれません。自発的に自ら率先して参加しましょう

を果たすことではありません。聖書の学びや祈りや教会参加を、神との親しい関係につなげてください。

メモ欄:

では、まとめてみましょう。すべてにおいて、目的・ゴールを念頭におくこと。私たちの目的は、神を知ることです。決して、義務感だけで宗教的責務



あなたはこの7日間で、キリストにある新しい生き方の基礎を学びました。もちろん、キリスト信仰のすべてを学んだわけではありません。神学、キリストにあるいのち、キリストにある立場・位置、キリストにあって与えられているものについて、まだほんの少しかじった程度です。それでも以下のことを学びました。

- キリストにあるアイデンティティ
- 永遠のいのち
- クリスマン人生の目的（究極的な目的と毎日の目標）
- キリストの弟子になるとは、どういうことか
- 聖書の学び方
- 地域教会の大切さ
- キリストにあって成長するためのステップ

この1週間で学んだことは、一生をかけて実践することです。

聖書を学べば学ぶほど、礼拝に参加すればするほど、ほかのクリスマンと繋がれば繋がるほど、神がさらに深く詳細に教えていってくれます。

クリスマン人生は、短距離走ではなくマラソンだということを忘れないでください。基礎をしっかり学べば、徐々に成長し、やがて成熟していきます。知れば知るほど、成長すればするほど、真理に従うことの大事さが分かってくいはずで

あなたとキリストの親しい関係から満ち溢れ、流れ出るようにして成就されます。神は（いくつかではなく）すべてを、そうやって成就させるのです。

THIS IS THE
GOSPEL

ThisIsTheGospel.com